

令和6年度第1回労働者安全衛生対策部会 追加質問・意見

福島県原子力安全対策課

項目 (資料番号、頁番号等)	専門委員等からの追加意見・コメント	東京電力の回答
資料 1-1	<p>約 1,000 件に上る総点検から改善点の洗い出しとマニュアル化は相当な労力がかけられたことが推察され、改善が進むことを期待する一方、あらゆる事例をマニュアル化することは困難な点があると思われる。</p> <p>近年、安全性を高める方策として従来のネガティブチェックだけでなく、現場の判断で問題を回避したポジティブな経験の共有という考え方も広がっている。こうした取り組みは Safety-II と呼ばれており、様々な分野に広がりつつある。廃炉関連作業においても、こうした取り組みを取り入れていってはどうか。</p> <p>例えば、資料 1-1 の 8 ページにあるような現場における「変化」の察知により問題を回避することは、それまでの経験やセンスが求められると思われるが、現場の判断により問題回避につながった事例（グッドプラクティス）を積極的に可視化し、全体で共有することにより安全性を高めることも考えてよい。マニュアルによりルール化すべき点を整理することを前提に、現場の創意工夫による問題回避の事例を積み重ねることは、作業に関わる人々の士気の高揚にもつながると思われる。</p>	<p>ご意見、ありがとうございます。</p> <p>まずは、今回の作業点検にて実施したリスクアセスメントの手法などにつきまして、弊社マニュアルへ取り込むことを進めてまいりたいと考えております。また、ご意見いただきました「ネガティブチェックだけでなく、現場の判断で問題を回避したポジティブな経験の共有という考え方」につきましては、今後の弊社マニュアル改訂や安全活動計画の立案などの際に検討させていただきます。</p>